第６回「医療・介護連携　顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

コーディネーター
古川　尚志　先生

第６回「医療・介護連携　顔の見える関係づくり交流会」を、平成 29 年 11 月 15 日(水)に甲府市南公民館　大ホールにて開催しました。甲府市南西地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、118 名の方にご参加いただきました。

今回は、交流会のコーディネートを古川内科・皮フ科の古川尚志先生、事例提供を甲府市南西地域包括支援センターの渡辺幸氏に務めていただき、交流会を進めました。

事例提供者
渡辺　幸　氏

座談会では、事例を通して「今後の疾患の進行等も予測し、どのようなチームケアが考えられるか」というテーマをもとに、それぞれの職種の意見を聞き、多職種の連携について真剣に考えました。

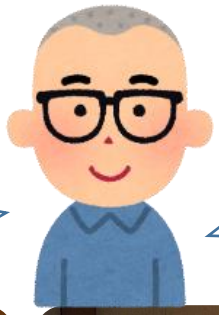
当日、外の様子は冷え込み、肌寒かったのですが、参加者の皆さんの活発な意見交換により、窓ガラスが曇るほどの熱気でした。

座談会終了後、各グループで行われた意見交換の内容について発表していただきました。

発表者からは、「退院する際に、病院側が在宅でも生活ができると判断しても、実際に在宅で生活を送れるかどうかには、ずれがあるため、その点について多職種で考えることができ、連携の大切を感じた」という意見や「普段、それぞれの職種が本人や家族のために支援をしているが、今回、多職種と話すことでそれぞれの職種の視点の違いを感じることができた」という、『連携』『多職種』というキーワードの多い感想や意見をいただきました。

最後にコーディネーターより、「交流会を通して、多職種が関われることが大切であるため、ぜひ、今後も交流会を続けていただきたい」と締めくくっていただきました。

交流会の様子を
掲載します！



皆さん、とても素敵な表情で、和気
藹々とした座談会でした！